わが社の企業価値

雪印種苗

安心・安全の徹底を図る経営

日本の酪農業を総合的にサポート

昭和25年12月、雪印乳業株式会社の種苗部門が分離独立して誕生した雪印種苗は、家畜を養い事業を発展させるためには、根本となる土を作り、草を作ることが大切であると考え続けてきた。

設立間もなくから牧草種子の生産販売に加えて乳牛用配合飼料の製造販売を開始・展開し、日本の酪農業を総合的にサポートしてきた。一方、野菜・花卉等の園芸作物や緑肥作物、芝生・植生種子にも早くから事業を展開してきた。

現在、①酪農畜産事業本部②畑作園芸事業本部③環境緑化事業本部の三事業本部制として、顧客との「共生」を主眼に、同社が農業分野において長年にわたり蓄積してきた「技術・ノウハウ」という強みを最大限に発揮しながら「統一した戦略」と「迅速な意思決定」を実現するための体制をとっている。

①酪農畜産事業本部では、単に牧草・飼料作物、配合飼料を提供するだけでなく、家畜糞尿の堆肥化技術にも取り組み「耕畜連携による循環型農業」を支援している。

②畑作園芸事業本部では、早くから「土づくり」の重要性に着目して緑肥作物の開発に注力し、地力の維持向上と病害虫の抑制により「低投入持続型農業」をサポートしている。

③環境緑化事業本部では、都市緑化などの景観形成に加えて、郷土植物の再生、自然復元緑化工事へと事業領域を広げている。

このように同社は農業分野に軸足を置きながら「環境」をテーマに各事業本部が連携した事業を展開している。

同社は創業以来「健土健民」という企業理念と「農業奉公」の社是を掲げ歩んできた。

「健全な土地から健全な食料が、健全な食料から健全な人間が生まれる」という意味である。また「健全な土地は健民が作る」という意味も含まれている。

今でいう「環境保全型農業」を60年以上前から掲げ、これを理念として長い道のりを歩んできた生真面目な会社である。

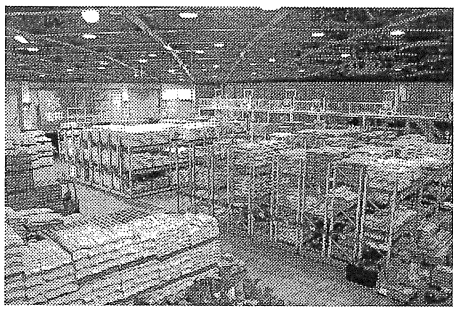
同社は全国4カ所に研究農場、研究所を有し、多彩な分野において基礎的な研究から、現場に近いノウハウの構築までを幅広く手掛けている。

公的機関との共同研究も積極的に手掛け、千葉県と共同開発したベントグラス「CY－2」は、05年全米芝草評価プログラム（NTEP）の総合評価でトップランクの評価を受け話題となっている。また、最近では北海道との共同研究により新植物性乳酸菌「HOKKAIDO株」を飼料用として実用化しプレスリリースを行った。

同社では、「食」への安全性が強く求められる中、品質の安定した製品を生産し供給することはもちろんのこと、法令など企業として守らなければならない事項を遵守していくために、今年7月よりコンプライアンスや内部統制を中心とするCSR室や品質管理を根幹に据えた品質保証室を社長直轄として設置した。正しい企業行動や製商品の安心・安全の徹底を図る経営を目指している。

◇

▽代表者＝掛村博之・代表取締役社長▽資本金＝46億4300万円▽本社＝北海道札幌市厚別区上野幌1条5丁目1の8▽従業員数＝390人▽URL＝http://www.snowseed.co.jp/index.html



種子センターで出荷を待つ保管種子